

9 2025  
Sept

 KAN No. 234

TAIKI

神埼に息づく

小さな郷土の伝統

尾崎人形



特集

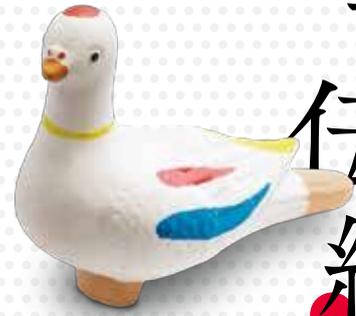
# 神埼に息づく小さな郷土の伝統



神埼町尾崎地区に伝わる郷土玩具「尾崎人形」。赤・青・黄の伝統色をあしらったやさしい色合いと、どこか懐かしさを感じる表情が魅力の焼き物人形です。かつては途絶えかけたこの伝統を、いま再び受け継ぎ、未来につなごうとする人がいます。地域に根づく手しごとの歴史と、それを守り伝える人々の想いをご紹介します。



尾崎人形は、神埼町尾崎地区に古くから伝わる焼き物の人形です。もともとは、瓦や火鉢などを焼く「尾崎焼」のかたわらで作られていました。その起源は鎌倉時代・1281年の弘安の役(元寇)にさかのぼります。捕虜となった蒙古兵が親切にしてくれた地元の人々に焼き物の技術を伝えたのがはじまりとされ、やがて尾崎焼は地域の産業として発展。江戸時代には佐賀藩から幕府への献上品にもなりました。



時代の流れとともに尾崎焼は次第に数が減り、人形づくりも途絶えていましたが、平成2年(1990年)に保存会が結成され、尾崎人形を守り伝えていく活動がはじまりました。その後、現在の保存会・高柳政廣さんが型や窯を継承。2019年からは尾崎人形に魅せられて尾崎へ移住した城島正樹さんが製作を受け継ぎ、佐賀一品堂として卸販売の管理も行なっています。



保存会 高柳 政廣さん 城島 正樹さん

尾崎人形



あたらしく  
仲間入りした  
ムツゴロウです！  
よろしくね！



鈴の人形もあり、  
中の玉も粘土で  
できている。カラカ  
ラと素朴で可愛い  
音が響く。



「尾崎の人が作っていることが、尾崎人形の大切な条件です」と話す城島さん。作り手が変わっても、赤・青・黄の伝統色を使ったやわらかなデザインや、手に取った人がホッとするような愛嬌ある表情は変わりません。笛を吹くと「ホーホー」と鳴る土笛や、やさしい音が響く土鈴など、子どもが喜ぶ工夫も施されています。現在は約40種類のバリエーションがあり、すべて手作業で作られているため、表情や音色にもひとつひとつ個性があります。作り手の人柄がにじむ素朴な作風は、県内外にとどまらず、海外から訪れる旅行者にも親しまれています。最近では、全国に店舗を展開する雑貨店やショップからの注文も増えているそうです。

一方で、あらためて地域に根差した歴史を見つめ直そうという動きもあります。「今後は、地区の年配の方々から、尾崎人形の歴史や背景についてさまざまな角度から話をうかがい、“尾崎人形とは何か”を改めて整理したうえで、次の世代が本業として受け継げる仕組みを整えていきたい」と城島さんは話します。

「人から愛される尾崎人形であってほしい」と語る高柳さん。この言葉には、尾崎人形を大切に受け継いできた人たちの想いが、静かに息づいています。時代を超えて守られてきた尾崎人形は、これからも地域の誇りとして、その魅力をさらに多くの人へと届けていくことでしょう。



城島さん作(左)、高柳さん作(右)。  
尾崎人形には明確な決まりがないため、作者により表情が違ふ。  
人形たちも個性があり豊かな表情を見せる。

### 尾崎人形 手作り体験

8月5日と8月18日に開催されました。  
19ページに当日の様子が記載されています。



◀最後の笛の口を開ける作業。難しい作業は城島さんが見守りながら進めます。



▶型から取り出し、自分で作った生まれたての鳥笛



7/26

## 長崎街道かんざき宿場まつり

第31回長崎街道かんざき宿場まつりが神埼町の櫛田宮一帯で開かれ、総踊りやステージイベント、歩行者天国夜市などで賑わいました。総踊り・賑わいパレードには、SAGA久光スプリングス所属アスリートの石井優希さんも参加するなど、約250人が旧街道沿いを華やかに練り歩きスタート。

市民主体で開かれる門前広場のステージや周辺の夜市では、多くの家族連れが催し物を楽しんでいました。

毎年家族で来ているという30代男性は「地元の友人らと楽しむ良い機会になっている」と笑顔で話しました。



8/2

## 夏空に歓声響く 城原川ハンギーまつり

第16回城原川ハンギーまつりが城原川親水公園「水辺の楽校」周辺で行われ、菱の実収穫に使う木製たらい「ハンギー」で競漕するレースなどで盛り上がりました。

ウォーターイベントには4人1組で競う「次郎っ子ハンギー競漕」や「菱むすめハンギー競漕」、個人競漕の「ハンギースピードマスター2025」など、5部門に約340人が出場。バランスを崩して転覆するなど珍プレーも続出し、応援の声や歓声が響きました。夜の部はステージイベントで音楽演奏やダンスが披露され、フィナーレは夜空を彩る花火で締めくくりました。



## 7/9 千代田中部小児童が 地域の特産品「菱」を学ぶ



千代田中部小学校の3年生が総合的な学習の時間で、特産品の「菱」や「ひしぼうろ」について学びました。講師には、ひしぼうろの製造を手掛けている大串製菓の大串久昭さんを招き、菱の収穫方法やひしぼうろの製造過程などの説明を、児童たちは興味津々な様子で熱心に聞き入っていました。

学習の最後には、ひしぼうろのPRキャラクター「ヒッピー君」が登場！子どもたちからは大歓声があがりました。

## 7/20 第6回おはなしフェスタ 絵本の世界で夏休みの思い出づくり

市内のおはなしボランティアグループが“文化の杜ネットワーク”として集まり、図書館とともに開催している「おはなしフェスタ」。

各団体をはじめ市長や神埼高校の2年生7人も出演し、読みかたりや風鈴づくりの工作で子どもたちから人気を集めました。

また、神埼ライオンズクラブによるお楽しみ抽選会も行われ、賞品として市内の書店で利用できる「ほんのおかいものけん」が渡されました。



## 7/25 デフリンピック キャラバンカーが市役所に！



11月に開催される聴覚に障がいのあるアスリートの国際大会「東京2025デフリンピック」の広報活動のため、全国を巡回しているキャラバンカーが神埼市役所を訪れました。

出場が内定している神埼市出身で自転車競技の簗原由加利選手はセレモニーで「多数のお出迎えに感激した。多くの応援を背に頑張ります」と抱負を語りました。

市役所1階の正面玄関付近に、簗原選手のメッセージボードを展示しています。ぜひご覧ください。

## 7/31 8/1 元教師が宿題に助言 夏休み子ども寺子屋

みんなと一緒に勉強を学んでもらうことを目的とした「夏休み子ども寺子屋」が神埼市中央公民館で開催され、2日間で市内の小学生77人が参加しました。

子ども寺子屋は、退職校長会や退職女教師の会などの元教師が講師として夏休みの宿題をサポートし、子どもたちは国語や算数などを個別に教えてもらいました。

子どもたちからは「宿題がたかさんでき、丁寧に教えてもらえてよかった」「来年もぜひ参加したい」などの声が聞こえてきました。

